



TITLE:

海外日誌(十三)

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. 海外日誌(十三). 天界 1924, 4(38): 92-95

ISSUE DATE:

1924-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160022>

RIGHT:

海外日誌 (十三)

在米山本一清

うた物質の外部運動に基く反對に遭遇せねばならぬ。若し我等が是等の材料の解釋に於いて正當であれば、螺旋星雲は「島宇宙」説によつて假定された距離にはあり得ないのであるより小さい距離に於いては、彼等の大きさは、我等が現在我が星辰系統に歸して居るものよりは比較するところではないであらう。是等の物體が何であるか、彼等の我等に對する關係が如何であるかは、尙疑問として將來の研究が回答する様残されて居る。

結論に於いて、我等が親しんで居る物體の凡ては、唯螺旋星雲を除けば巨大な系統の組成員であつて、該系統はその莫大な領土中に恐らく十億以上の太陽を包含し、其の輪廓は我等の爲めに銀河の外圍によつて界を立てられて居る。此處に單獨の又幾重かの太陽や太陽の集團が莫大な距離で互に分離され、而も重力の影響の下に保たれ且つそれに従つて彼等の運動が方向づけられてゐる。此の大家族の一員として結合されたものに不規則形なもの、遊星状に分たる瓦斯狀星雲がある。此の系統の内に我等は種々の構造を排列（其の意味は單にほんやりと悟られてゐる）この證據を見るのみならず、亦發達し衰微するの兆をも見るものである。此の恒星宇宙の概念は驚異すべきものであるとは雖、我等は今尙その構造を意匠の更に本質的な詳細に關する知識の啓端に當つて居るに過ぎない。（なほり）

七月二十八日(土)

午前中、計算室で讀書。

午後一時、天交臺用の車に便乗して下山。ヘティ氏も同乗する。三時半歸宿。

夕方、市内散歩。

七月二十九日(日)

午前十一時、高岡氏に迎えられ、カーに同乗して、ハリウッド獨立教會へ行き、禮拜式に列し、「聖書と天文」といふ説教をなす。其の後、橋本氏方で大勢が午餐。それからバサデナ市に歸り、高岡氏の紹介で、當市内の日本人合同教會の田村牧師を訪ふ。

夕方、チャターハウス老人の訪問を受け、カーで市の内外を案内せられた。

七月三十日(月)

早朝、當市日本人會の須原氏來訪。九時からオフィスに出勤、ヘティ氏から太陽のカルシウム寫眞研究法に關し意見をきく。それから圖書室で太陽に關する文書をよむ。

夕方、散歩のついでにサイプレス街の田村牧師を訪問。

七月三十一日(火)

今日からオフィスで太陽のカルシウム寫眞の研究を始めることにし、先づ標準板を撰むことに取りかかる。アダムス臺長も傍へ来て意見を述べられた。

午後四時、歸宿。チャターハウス老の訪問をうけ、カーで川端公園

から郊外を散歩し、グレンデール市を経て歸る。

夕方、原氏を訪問。明後日のロスアンゼルス領事館訪問の件を打ち合はす。

八月一日(水)

午前中、新城教授の依頼による幻燈畫を天文臺事務室で撰ぶ。午後は本部の地下室で太陽のカルシウム寫眞を整理研究。

英子は、急に思ひ立つて、今日からロスアンゼルス市の裁縫學校へ通ふこととなる。

八月二日(木)

朝十時から、日本人會の須原氏の自動車でロスアンゼルス市へ行き、イタリヤ銀行ビルディング内の日本領事館を訪問、岸領事に面會挨拶す。新聞記者に捕へられて、暫く、日食の談話す。それから晝食には日本人町でおすし屋へ入り、後、英子は學校へ。自分は合同教會を訪問して、田中、小川兩牧師とさう／＼の話をす。夕方、英子と同道、バサデナ市に歸る。

夕食後、田村氏を訪問。

今夜九時、當國大統領ハーデンが病死の報をホテルの主人に聞き大びつくり。直ちにコロラド街に飛び出して、新聞號外を買ふ。街路は流石にザラついて夜更けるまで人通りが何となく落付かない。家々の屋根の上や電柱には、大統領の巡遊を歓迎する意味で、四五日前から賑々しく國旗を掲げて今夜も何それ等がひるがへつてゐるのに。

八月三日(金)

今日から、天文臺地下室で整理のついた太陽カルシウム寫眞の面積目測を始める。原板は一九一五年からで、現今まで八千枚に及ぶ多數である。

夕方、レイモンド公園散歩。

かれて、願書を差出して置いたのに對し、文部省より「和蘭國を在留國に追加す」といふ辭令が到着した。

八月四日(土)

午前中、天文臺で例の通り、太陽のカルシウム板検査、始め豫想してゐたよりも速く仕事が進んで行く。太陽面上の黒點の出沒はカルシウム雲及水素ガスとの關係が興味深く了解される。非常に有益な經驗である。

午後二時から、田村牧師のドライブで、ラマンガ・パーク、シエラ・マドレ、モンロヴィア、オーク・ノール附近を見物し、少憩後、更にアビル門、コロラド橋、アシユ花園等を見、夕食の御馳走を頂いて、九時頃歸宿。

八月五日(日)

朝十時、エル・モンテの高岡牧師の自動車で送られて、ロスアンゼルス合同教會へ行き、禮拜式に列す。十時半よりはアメリカ生れの日本子供のための英語禮拜、十一時から大人のための日本語禮拜。今日はハワイ大學の原田助博士の説教「世界歴史の三大教訓」があつた。

午餐は同教會の小川牧師に頂き、食後、自動車で送られて、サン・ガブリエル市のミシオン劇を見る。劇場は假小屋であるが、今日は今年度の最終日で、觀客客約一千人。十八世紀末のカリフォルニア州に開拓的傳道を試みたフランシスカン僧侶たちの熱烈なる様を見大に感動す。藝術として、之れは先日ハリウッドで見た基督劇よりも優れて居ると思つた。

夕方、又、右の劇場から、或る未知の友の自動車に送られて、エル・モンテの高岡氏を訪問、夕食後、送られて歸宿。

八月六日(月)

朝十一時、ロスアンゼルスより來られし原田助氏夫妻、清原、高岡諸氏と共に、一行六人、自動車雇ふてウイルソン山に登る。清原氏が會計係、自分は案内役といふ次第。先づ市内サンタ・バーバラ街の天文臺本部構内に目下組立中の日食觀測用機械を見、こゝまでは田村牧師も同道、それから、例の曲折の多いトル通を登る。気温は暑からず寒からず、上々であるが、折柄、サンタ・バーバラあたりの山火事さかで、空一面は霞で、遠方の景色は見えない。

午後一時過ぎ、山上のホテルに着。定刻につき、取あへず天文臺の陳列館を案内。それから一旦ホテルに歸り、屋外の亭でロスアンゼルス市から持参のおすしのランチ。さう、三時頃から再び天文臺に行き、先づ六十時の望遠鏡、次ぎに百時の大望遠鏡と其の構造其のドーム等を案内説明した。今日は百時の觀測プラグラム交代日で、ヒース氏が干渉計を取り付けて居た。ドームの内外で、清原氏は數枚の紀念寫眞を撮る。それからエコー岩のあたりを散歩して、サンガブリエル溪谷の壯觀を見、夕方、ホテルに歸る。

夕食後、ホテル主人の案内で物見臺からバサデナやロスアンゼルスあたりの夜の電師を見る。十時から、自分は獨り百時望遠鏡室へ行き、ヒース氏が織女星や牽牛星の干渉測定してゐるのを見、夜十二時歸室。

八月七日(火)

朝四時半起き、一同打揃つてエコー岩へ行き、サンアントニオ山から登る朝日を見る。れむくて、其の後、二時間ほど、再び床に入る。

朝食後、午前九時、昨日の自動車に乗り、一同、元の道を下山。午前十一時、バサデナ市サイプレス街の田村氏方に迎へられ、日本食の午餐を頂く。——こゝで登山隊は解散。原田夫妻はサンタ・モニカへ、高岡氏はエルモンテへ、自分等は宿へ歸る。

八月八日(水)

朝九時から、英子はお市へ、自分は研究室へ。——研究室で十一時頃、セント・ジョン氏を訪ひ、太陽黒點の構造について意見の交換をなす。

午後三時頃からロスアンゼルス市へ行き、英子と共にメイン街で買物なぞす。六時から第一街の三光樓で、同志社同窓會主催原田助氏夫妻觀迎會に招かれて出席。會後、八時頃、小葉竹氏の病氣を見舞ふく、歸室。

八月九日(木)

午前、天文臺本部でサンフォード氏に面會、いろいろリク天文臺の

話しなぞす。氏は嘗てリクに居た人で、ムーア氏と昵懇の由。此の日、エラーマン氏とシカゴのマイケルソン教授と、天文臺で玉突をしてゐた。

夕方六時、英子と共に田村氏方に招かれ、日本食さしみの御馳走をいただく。九時から南ハドソン街にクリーソン氏を訪れ、日本の事、及び加州日本人問題につき、いろいろ話す。

八月十日(金)

今日はハーデング大統領の葬式の日なので休日である。自分は午前中、天文臺へ行つたが、午後は休む。

午後一時半、レイモンド公園に於けるバサデナ全市追悼會を見る

八月十一日(土)

今日は田村一家と共にピクニックの約束で、午前九時頃、自動車で誘はれ、眞すぐに東に走り、景色自慢のフトヒル道路により、モンロヴィア、アズサ、アブランドを経、サン・バーナーデノの教會で少憩。それからレドランドのスマイリー丘に着き。御辨當をひるげ景色を賞しつゝ、食事を樂む。

食後、又乗車、コルトンを通過、ハイグロブの小泉方で果物の御土産を出し、次でリヴァサイド市に清水久男氏を訪問、清水氏の案内で、同地の有名なミシオン旅舎を見る。スペイン式の古刹と東洋式の豊富な美術品には大に驚かされたものが多い。

夜九時、バサデナ市田村氏宅に歸着、夕食をいただき、宿に送られた。——幸福な一日であつた。

八月十二日(日)

朝十時 迎へられて田村氏の日本人合同教會へ行き、先づ日曜學校生徒徒に日本語と英語を半分づつの説教(祈りについて)説教をし、十一時から大人の禮拜式に「天の默示」について説教す。

午後、英子はお市に連れられて、江馬氏方の造花陳列會を見に行き、自分は子供たちの御守りを仰せつかる。

八月十三日(月)

てんぶらの夕食をいただいて歸宿す。

天文臺へ行つて見れば、エラーマン氏等、サンデーゴへ日食觀測旅行の準備で、忙しさうであつた。長らく山上で光速の實驗をしてゐたマイケルソン教授は仕事を一先づ切り上げ、本日シカゴ大學に歸つて行つた。

夕食に、また、田村氏に招かれた。食後、自動車で濱に連れて行つて貰ひ、ヴェニスでシーニック・レールや謎のガラス家など興じ、夜半歸宿。

八月十四日(火)

一九一八年までのカルシウム太陽板の測定が終つたので、試みに之れをカーヴとして見る。午後十一時頃、恰もCGアボト氏が自分の研究室に來られたので、カーヴを見せ、いろいろ意見なき。エラーマン氏等、日食觀測隊の一行は今朝サンデーゴへ出發した。今日は天文臺本部に訪問者が多くて、アダマス臺長代理は殊に多忙らしく見えた。

夕方は公園を散歩。

二男修より片假名がきの始めての手紙来る。

八月十五日(水)

今日から又太陽カルシウム寫眞板の測定をつづける。

午後四時半から、メルリ氏夫妻に連れられて、オーク・ノール附近やオレンヂヤグロウ通りをドライブす。

夕食には田村氏方に招かれ、その後、案内されて合同教會堂に行き、八時から一般の天文講演をなし、最後に若干の幻燈畫を見せて説明した。十時半歸宿。

ホビュラーアストロノミ誌とパシフィック天文雜誌とに、日本の天文學界に關して、共に自分の稿が同時に現はれた。

八月十六日(木)

太陽カルシウム板測定の結果を全部カーヴに書き終る。一寸見たところでは太陽恒數との一致は明らかでない。尤も黒點の子午線通過と太陽熱降下とは多少關係があるらしい。

夕方、英子はロスアンゼルス市から、おすしを買つて來た。食後

散歩。

八月十七日(金)

例により、朝九時より自分は天文臺の研究室へ。英子は少し疲勞の氣味で、午前中は宅に休養。

夕方、田村氏方へ招かれて行く。

八月十八日(土)

午前中、天文臺本部へ。

田村氏の厚意により、市内チエスナト通一六一のミス・スピア方のアパートメントを借りることに決定。午後五時半、急に荷物をまとめ、手輕なものはタクシに乗せて運搬移轉を了す。トランクは明朝運ばれる筈。——こゝで渡米以來最初のハウス・キーピーガを始め。先づ取り敢へず、六時まで大急ぎ、一通り必要な食料品をマーケットに買ひに行き、持ち歸つて食事。まるで新婚當時のやうなはしやいだ氣持になる。

夜、田村氏方を訪問、但し主人は不在。

八月十九日(日)

朝九時半から、市内南マレンゴ通の第一組合教會へ招かれ行き、ミス・ヒュズレーの紹介で、大人の聖書科約百人の組に「最近の日本」に關して英語講演をなす。それから同教會で禮拜を守る。説教者はフオクス牧師。

午後六時から、また、市内の長老教會へ招かれて行き、青年學生六十名ほかに「日本の最近の思潮」について一時間の英語講演をなす。ハウス氏紹介す。

その後、引き続き、エレバド通の日本人會の主催の講演會に臨み時事新報の三浦修治氏及び東京市電氣局の石井満氏につき、自分は「天文學一般」につき講演した。百名以上の集りであつた。

八月二十日(月)

今日は少し餘暇があつたので、火星の古い觀測史を研究した。午後八時頃、ロスアンゼルス市から小葉竹氏來訪。